



2022年3月期第3四半期 決算説明資料

2022年2月
富士興産株式会社

(証券コード：5009)

計画を上回るペースの進捗率

売上高

40,414 百万円
(進捗率 72.7%)

営業利益

394 百万円
(進捗率 73.0%)

経常利益

444 百万円
(進捗率 74.0%)

四半期
純利益

271 百万円
(進捗率 63.0%)

※石油事業は、冬季に需要が増加する灯油・A重油が中心であるため業績に季節的変動があり、売上高・利益ともに第1・2四半期が少なく、第3・4四半期が多くなる傾向にあります。

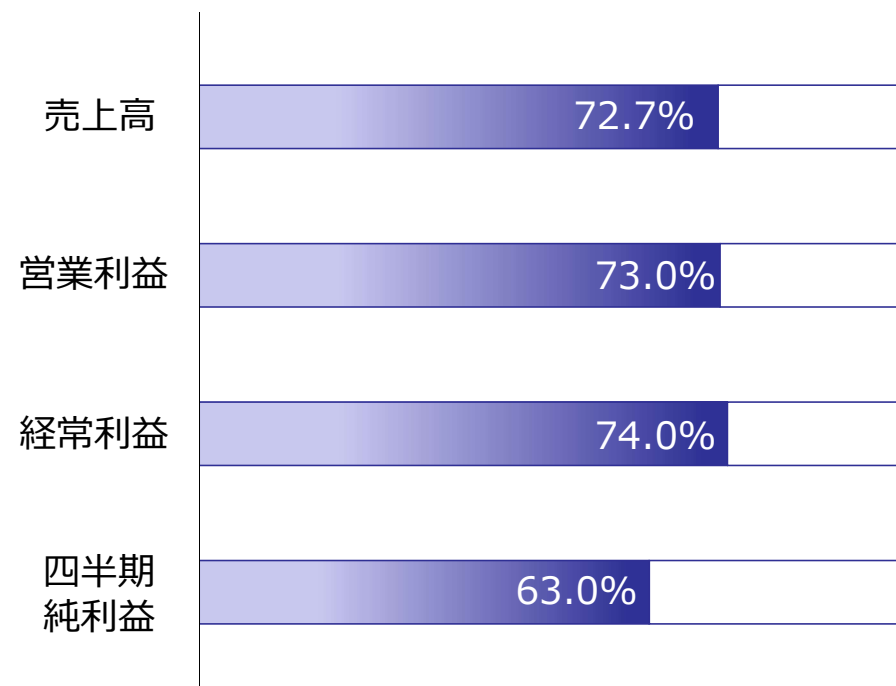
2022年3月期第3四半期決算 計画進捗率



グループ全体での営業利益、経常利益は計画値を上回る。
四半期純利益についても、公開買付対応費用の計上をしたものの
計画通り進捗。

(百万円)	累積実績	通期計画	進捗率
売上高	40,414	55,600	72.7%
営業利益	394	540	73.0%
経常利益	444	600	74.0%
四半期 純利益	271	430	63.0%

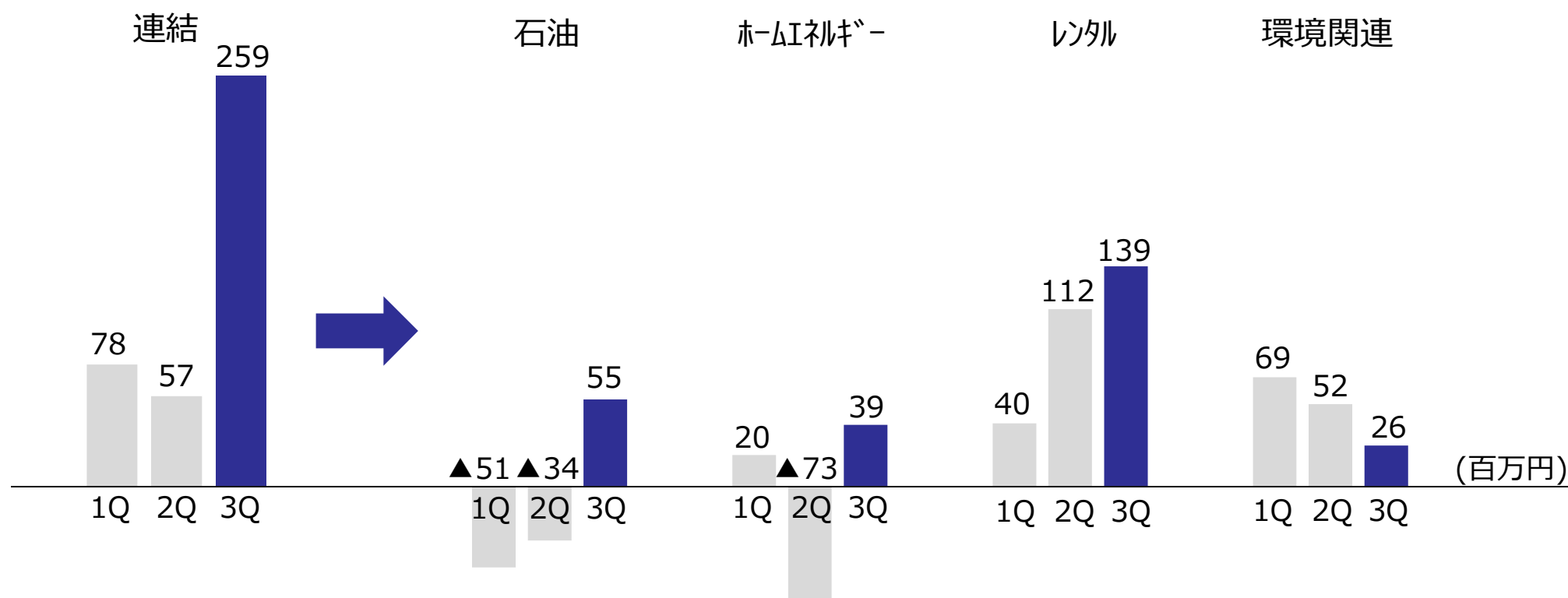
計画進捗率



2022年3月期第3四半期会計期間（10-12月）営業利益実績



石油事業は継続的な顧客の深耕開拓、自社基地の利用促進の効果により、ホームエネルギーは既存顧客を確保しつつ、新規顧客開拓により黒字に転換。レンタル事業は引き続き好調を維持。環境関連事業の内、太陽光発電事業は日射量影響に加え、積雪の影響を受け減少。



4Q（1-3月）の計画達成で通期計画達成可能

<4Qの取組み>

石油

今後の川下戦略に繋げる為、新規顧客獲得及び顧客との強固な関係構築に引き続き注力する。また、増加傾向にある仕入コストの速やかな販売価格への転嫁に努める。

ホーム エネルギー

新規顧客獲得活動を加速させるとともに、増加傾向にある仕入コストの速やかな販売価格への転嫁に努める。

インフラ

積雪により減少する工事需要を補うため、除雪ニーズの取り込みに努めるとともに、経費の圧縮をすすめて収益の確保を図る。

環境関連

アドブルーについて、増加が予想される仕入コストを遅滞なく販売価格に転嫁し、利益の確保に努める。

- ・資料の内容につきましては最新の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社および情報提供者は一切責任を負いかねます。
- ・当資料に記載されている当社の現在の計画等は、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらにより将来予測・業績予想には、リスクや不確定な 要因を含んでおります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

(参考1) 2022年3月期第3四半期決算 前年同期比

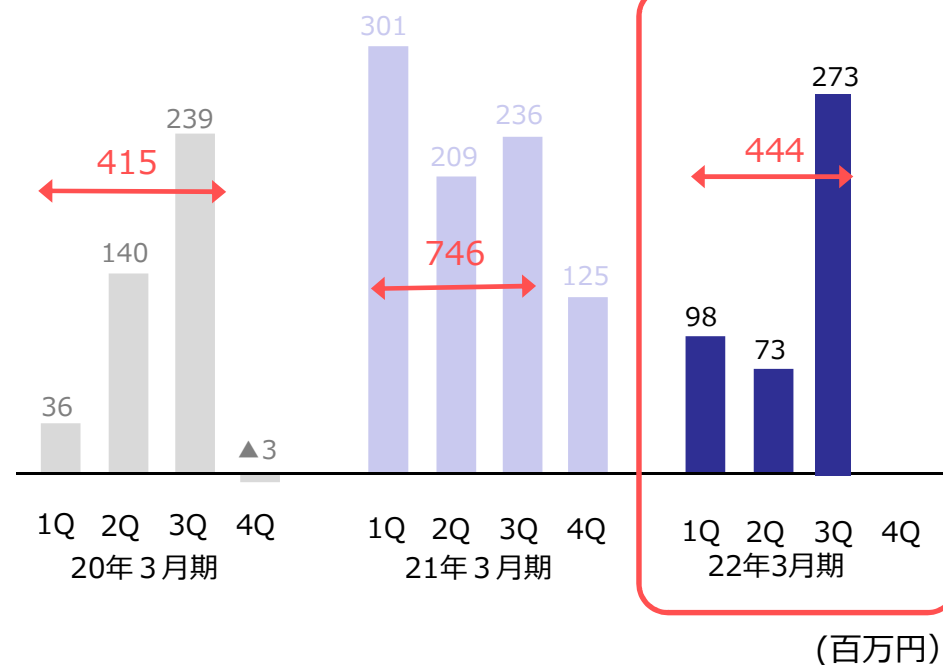


【概況】

売上高は、石油事業における原油価格上昇に伴う製品販売価格の上昇により前年同期比122億円（43.4%）増加の404億円。
 営業利益は、石油事業の仕入れコスト上昇の影響や、一般管理費の増加もあったことから同148百万円（27.3%）減少の394百万円。
 また、経常利益は、受取配当金の減少などにより同302百万円（40.5%）減少の444百万円。特別損失に公開買付対応費用91百万円などを計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は同284百万円（51.2%）減少の271百万円。

(百万円)	21年3月期 3Q累計実績	22年3月期 3Q累計実績	増減
売上高	28,187	40,414	+ 12,227
売上総利益	3,058	2,986	▲72
販管費	2,516	2,592	+ 76
営業利益	542	394	▲148
営業外損益	205	50	▲155
経常利益	746	444	▲302
特別損益	79	0	▲79
四半期純利益	556	271	▲284

【参考】経常利益 四半期毎推移

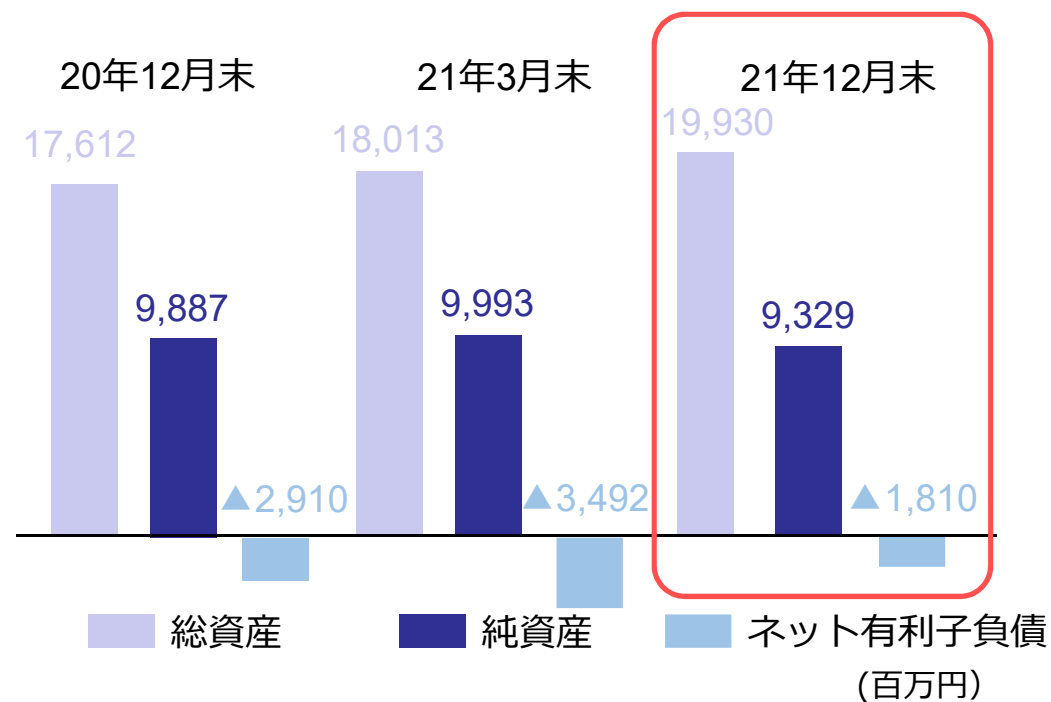


(参考2) 財政状況



- 総資産：受取手形、売掛金及び契約資産などの増加が、現金及び預金などの減少を上回り、前年度期末1,917百万円増加（+13.2%）の19,930百万円。
- 純資産：利益余剰金の減少などにより、同663百万円減少（▲6.6%）の9,329百万円。
- ネット有利子負債：現預金の減少によりマイナスが減少。

(百万円)	2020年 12月末	2021年 3月末	2021年 12月末
流動資産	10,836	11,254	13,174
固定資産	6,775	6,758	6,756
総資産	17,612	18,013	19,930
流動負債	7,146	7,432	10,018
固定負債	578	587	582
純資産	9,887	9,993	9,329



(参考3) キャッシュ・フロー



- 営業活動によるキャッシュ・フロー：仕入債権の増加や税金等調整前当期純利益などの資金増加要因および減価償却費などの非資金項目の合計額に対して、売上債務の増加額、法人税等の支払額や棚卸資産の増加額などの資金減少要因が上回り▲77百万円。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：有形固定資産の取得による支出などの資金減少要因の合計額が、有形固定資産の売却による収入などの資金増加要因の合計額を上回り▲481百万円。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：配当金の支払いなどにより▲1,004百万円。

(百万円)	22年3月期 3Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲77
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲481
(フリー・キャッシュ・フロー) *	(▲558)
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,004
現金及び現金同等物の増減額	▲1,563
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,050



【参考】
有形固定資産の取得による支出（▲561）の内訳

(百万円)	投資状況	
石油	96	維持更新投資。 成長投資案件取組み中。
ホームI補給	97	コロナ影響での遅れを早期 にキャッチアップ予定。
IT	367	積極投資は順調に進捗。 さらなる新規獲得を目指す。
環境	1	維持更新投資。

*フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

(参考4) ドバイ原油/プロパンCP価格推移

